

議長（中田文夫君） 日程第1 一般質問を行います。

通告順に発言を許します。

5番 竹島ユリ子君。

5番（竹島ユリ子君） おはようございます。

質問に入る前に、私の思いの一端を述べ、質問に入らせていただきたいと思います。

全国の市町村合併の進展で日本一小さな自治体となった舟橋村に、今、日本一と注目される中で、スポーツ面においては小中による卓球、陸上、馬術。特に、卓球では北信越大会において女子、団体、個人とダブル優勝。そして、全国大会に出場されました。中でも、中学校団体では全国39校中ベスト8に入り、優秀校としても表彰されました。また、舟橋中学校卒業のOBの皆さん高校生も、卓球と陸上競技で、10月に開催される「のじぎく兵庫国体」に出場されます。

一方、文化面では、読売新聞北陸支社主催の「立山こころの歌」の募集に出品されたところ、池野元はるかさんの作品が最優秀賞に選ばれました。受賞の知らせに「うれしくて泣いてしまった」とのコメント。池野元さんの夢は作詞・作曲家になること。自分の書いた歌詞がCDにもなるということで、今、夢に一步近づいたことでしょう「夢と希望はルールを敷き、努力と感謝は道を開く」と言います。夢は膨らむばかり、多くの人に愛される歌になってほしいですね。そして、これからの明るい未来の地域づくりと新たな情熱の心に、夢と希望を持って、次代への贈り物として歩み続けていただきたいと思います。小さな村から、光と輝く本当にすばらしい情報発信でした。

それでは、通告してあります次の2点について、村長にお伺いいたします。

質問の第1点目、自立の地域社会を目指して。現在、地方分権社会が進む中で、地域にあったまちづくり、暮らしづくりが求められ、重要なテーマになっております。地方の権限と責任が重要な意味を持ち、首長のリーダーシップが問われています。特に、地域の自立を確立するためどうしたらよいか。これからの姿とはどのようなものか。私は、小さな町村生き残り、そして小さな単位からの自立は財政的にやっていけるのか。あくまで個々のスタートから始まると考えます。

日本一小さな自治体が目指しているのは、自主・自立的な活動を行うことによって活力を発揮できるような分権型システムを構築することに尽きると考えます。新たな住民自治の仕組みなどにおいて、相互の知恵とアイデアの競争を展開することが、住民のニーズに応じた地域社会の発展につながるとともに、我が国全体の発展にも結びつくもの

と考えます。

村長は、「村は日本一として注目されるのは喜ばしいが、住民にとってよい村を目指す姿勢は変わらない」と、冷静に受けとめていらっしゃいます。そして、「今後とも、快適な田園都市づくりに向け住環境を整備し、健全財政をモットーに住民サービスに努めたい」とも話されております。

そこで、村長にお伺いするわけですが、舟橋村が目指す自主・自立の社会の姿とはどのようなものをお考えでしょうか。目標に到達するにはイメージすることがとても大切になってまいります。だれしもビジュアライズできるような明確なものが望まれると思うのですが、いかがでしょうか。力強いリーダーシップを発揮されています村長に、先導的な役割を果たすたくましい舟橋村の未来図の構築を期待するものですが、村長のお考えについてお伺いいたします。

2点目といたしまして、公共施設の運営方法の見直しについて、村長にお伺いいたします。

9月1日より、駅南駐車場の有料化を実施され、まだ数日ですが、当初の見込み台数を上回る稼働率があると聞いております。10月1日からの本運用後の結果も気になるところですが、ひとまず成功と言えるのではないのでしょうか。

この駐車場は、平成5年に村に人口増対策の一環として駅周辺の活性化を目的に整備されました。開設以来、村内外から数多くの方に利用され、平日は200台を超える利用者がおり、おかげさまで地鉄電車の停車本数が増え、村民にとっての利便性が高まりました。

また、図書館の利用者も増え、平成10年のオープン以来、全国利用率1位と、新しい村の顔をつくり上げることができました。しかし、今どこの自治体も財政的に苦しい時代を迎えており、少ない予算で最大限の効果を上げるべく、努力をしていかなければなりません。本村においても、今まで無料で駅周辺の活性化を図ってきた駐車場を、時代のニーズに合わせた公平性、受益者負担の観点から、運営方法を見直し有料化を実施いたしました。

しかし、村にはほかにも、舟橋会館、図書館、河川公園、デイサービスセンターなどの公共施設があります。これらの既存施設についても、設置目的や利用状況を検討することはもちろんのこと、利用者の声を反映できるよう、総合計画後期基本計画作成時といたしましても、住民からのアンケートをとるなど、利用される方の声を十分考慮した

上、今後の運営方法を再検討しなければならないのではないのでしょうか。村長のお考えをお伺いいたします。

以上。

議長（中田文夫君） 金森村長。

村長（金森勝雄君） 5番竹島ユリ子議員さんの、まず初めに、自主・自立の地域社会とはの質問にお答えしたいと思います。

私は、日ごろから自主・自立を個人としてとらえた場合は、素直に申し上げますと、他人に頼ることなく自力で物事に対処するというふうに狭義的に考えておる次第です。また、公共団体、舟橋のような一つの団体としてとらえた場合におきましては、広義的思考が大切であると思っております。なぜかと申しますと、地方公共団体（地方自治体）は、法のもとに自主・自立が認められ、保護されているからであります。

しかしながら、その地方自治体の方向づけ等に当たっては、住民による意志決定、いわゆる民意によることが必須要件とされていることも理解しております。そういうことを考えてみますと、私は、日ごろから行政の主役は村民であるということ踏まえまして、私が就任いたしましたから、タウンミーティング等を実施しているのも、その一例であると思っております。

そういうことで、自助 自分の責任で自分のことを行う、互助 自分だけでは解決を行うことが困難なことについては、周囲、地域が協力し合うという互助精神、それからまた、公助 個人や周囲、地域あるいは民間の力では解決できないことに対しましては公的機関が行うという、3つの関係、自助・互助・公助によりまして、行政と住民が協働できる共生型地域づくりが、自主・自立の地域社会を目指すかなめであると考えておる次第です。これが、私のイメージする自主・自立の地域社会の姿であると考えております。今年の4月から新たに創設した制度でございますが、コミュニティ振興交付金制度がその一例であるというふうに御理解をいただきたいと思っております。

そして、竹島議員さんがおっしゃった「だれしもがビジュアライズできるような」ということでございます。確かに、視覚的にこのように行政が動いているんだということは非常に大切なことございまして、その点で私は情報公開ということから、ホームページを刷新いたしました。新しい舟橋村の動きをホームページで皆さん方に見ていただくと。そして、お互いに理解し合うという一つの進め方が、今日における舟橋村の行政

の姿でなかろうか。もう一度繰り返して申し上げますが、それが自主・自立の地域づくりの姿であると、このように考えておるわけでございます。

また、他面、村内の人材の発掘や育成に努めてまいらなければならないというふうにも考えておる次第です。

今後、審議会等には女性の方々の登用参画していただいて、村の様子をいろんな面で皆さん方が協力していただけるような構造をつくってまいりたいというふうにご考えておるわけでございますので、いろんな意見をどんどん遠慮なく私のほうへ問いかけていただければ、議員さんのおっしゃっている、このビジュアライズというのは非常に私も関心を持っておりますし、そうあるべきだというふうに思っておりますので、今後ともよろしくお願ひしたいと思います。

次に、公共施設の運用方法の見直しについての御質問でございます。

この御質問の要旨につきましては、財政がますます厳しくなる現況下にあるということとを認識の上、村が直営の施設、サービス提供に対する負担のあり方を、現時点のこういう厳しい財政状況であるから、再検討すべき時期を迎えているんじゃないかというお尋ねでなかろうかと私は理解しておる次第です。そういうことを踏まえまして、お答えしたいと思います。

御存じのとおり、舟橋会館は、人口増に伴う新旧住民との出会い、交流の場として、総工費8億6,000万円を投資いたしまして、平成6年4月にオープンいたしましてから早くも12年が経過しております。この施設につきましては、御存じのとおり、公民館機能あるいはまた社会福社会館機能、体育保健機能プラス入浴できる場として、多面的な機能を持った総合会館でありまして、また、社会教育関係団体の活動拠点としても多くの村民に利用されている状況でございます。

17年のデータで申し上げますと、会館利用者総数は4万9,970人、5万人にちょっと足りないわけでございますが、以上の状況でございますが、条例に基づき使用料を納めていただいた総額は、テニスコートも含めて753万円余りということになっております。一方、それに伴って、会館を運営している人件費等、あるいは光熱費等を含めた必要経費でございますが、2,271万9,000円ということになっております。村民1人当たり年間の会館使用回数にいたしますと、約18回利用されているような計算になります。

次に、駅舎と一体化し併設して建設いたしました図書館の件でございますけれども、

御存じのとおり、漫画なり非常にユニークな会館として好評を得ているわけであり、開館以来多くの方が利用されておりまして、貸出し冊数におきましては日本一ということで、開館以来そのような状況にあると。これは御存じのとおり、いろんなメディア、新聞なりあるいはテレビ等で図書館の状況を取り上げていただきまして、このことによりまして舟橋村が非常に全国的に知られているという結構な状況をつくっておるわけでございます。

そういうことで、今まで大きなプロジェクト事業として作り上げました舟橋会館なり図書館につきましては、十分検討の上で、どうしたらその施設が村民に利用され、そしてまたどのようになっていくか。将来を見越したテーマを持ちながら会館建設に踏み切ったということで、私はこのような状況が最も望ましい姿であるというふうに考えておりまして、とにかく公共施設は民間の施設と異なりまして利益を追求するようなものでございまして、逆に言いますと、採算がとれなくても、住民にサービス提供する場としてやらなければならないという一面もあるわけでございますので、そういう点も御理解いただきたいなと、私は思っているわけでございます。

そういうことで、財政難の今日、一部の団体あるいはまた一部の方においては、公共施設不要論の意見すら出ている時代でございますけれども、私は、税金のむだ遣いではなしに、今現在舟橋村にある施設は、十分その目的と機能をしているものというふうに理解しております。

しかしながら、それだけで今後とも進めるという気持ちではございません。利用者の方がまだまだ不足しているものはどうかとか、あるいはまたその他の面の経営をどのようにしたら、もっとスリム化できて、財政的なものを踏まえてこういうことができるかどうかということ、ことしの春に策定いたしました集中改革プランにそういった方向づけも示しておりますので、そういったことを含めまして、あらゆる角度から、今後とも検討してまいりたいと、こういうふうに思っております。

いずれにしても、先ほど申し上げましたように、村民から愛される施設でなければならぬ。そしてまた、それを利用することによりまして村に活気がみなぎるような運営の仕方に持っていかなければならないというふうにも考えておるわけでございますので、今後とも、今議員さんが御提言されたような趣旨を理解しながら努めてまいりたいというふうに思っておりますので、いろいろと御支援を賜りますようお願いを申し上げまして、私の答弁にかえさせていただきます。

よろしくお願ひ申し上げます。

議長（中田文夫君） 5番 竹島ユリ子君。

5番（竹島ユリ子君） 今ほどは答弁ありがとうございました。

その中で、アンケート調査の必要性についてお伺いしたと思うんですけれども、どのようにお考えでしょうか。

議長（中田文夫君） 金森村長。

村長（金森勝雄君） アンケートにつきましては、後に後期総合計画についての質問がございますので、その中で申し上げたいと思ったわけでございますが、実施いたしますには、いろいろな施設の活用状況等を踏まえたことも後期総合計画の中にもうたっていかなければならないということもございます。それは、現状といいますか、課題等も含めてやっていかなければならないということで、アンケートの必要性は十分認識しておりますし、総合計画の策定の中にそういった調査を実施したいというふうに考えておりますので、御理解をいただきたいと思ひます。